FUJIFILM

Vol. 78

June 2010

株主の皆様へ

FUJIFILM NEWS

10月

■ クリニックにおけるX線検査のデジタル化と効率化を強力にサポート！高品質な普及モデルの小型デジタルX線画像診断システム「FCR PRIMA」新発売

■ インフルエンザ治療薬「T-705」（ファビピラビル）国内臨床第Ⅲ相試験を開始

11月

■ スモールオフィス向け商品を強化し、中・小規模事業所市場へ本格展開。フルカラーデジタル複合機「DocuCentre-IV C2260」新発売

■ 低分子コラーゲン 10,000mgをわずか30mLに高濃度配合！美容ドリンク「アスタリフト ドリンク コラーゲン10000」新発売

12月

■ 世界的に伸長する液晶ディスプレイ需要に対応し、生産能力を増強。富士フイルム九州「フジタック」第3工場第2ライン稼動

■ アプリケーションの付加価値向上を実現し、プロダクションカラープリンティング市場を牽引。「Color 1000 Press / Color 800 Press」新発売

1月

■ 富士ゼロックスが、強靭な企業体質への変革と競争力強化を目指し、開発・生産機能を再編・統合。開発、生産新会社を設立

2月

■ テーマパークやイベント会場でも3D写真のプリントサービスがその場で提供可能に！「FUJIFILM 3D プリントシステム」新開発

■ 世界初の新機能「2画面サクサク再生」「ペット自動検出」を搭載した、高機能スリムデジタルカメラ「FinePix Z700EXR」新発売

■ 日本企業で唯一*、富士ゼロックスの中国リサイクル拠点が中国政府から電機製品再製造モデル企業と認定

＊平成22年2月現在

■ オフィス向けフルカラーデジタル複合機「ApeosPort-IV / DocuCentre-IVシリーズ」8機種が、省エネ大賞「経済産業大臣賞」受賞決定。業界初、11年連続受賞を達成

■ 医薬品開発・販売に本格参入。富士フイルムファーマ株式会社を設立

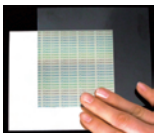
■ インフルエンザ治療薬「T-705」（ファビピラビル）米国での臨床第Ⅱ相試験を開始

■ デジタルカメラ「FinePix Z700EXR」など3機種が米国PMA2010において「DIMA 2010 Innovative Digital Product Award」を受賞！

3月

■ 徹底した顧客視点で新しい顧客価値を創造するR&D拠点として、横浜市「みなとみらい21」地区に「富士ゼロックス R&D スクエア」竣工

■ 世界初！専用ビューワーをかざすとフルカラー画像が出現！偽造防止ラベル「フォージガード」新発売



（注）
- 月はニュースリリースの発表月です。実際の発売月、設立月とは異なる場合があります。
- 平成21年4月から9月までのトピックスは、「FUJIFILM NEWS」Vol.77（平成21年12月 発行）に掲載されています。

経営基盤強化を成し遂げ、新たな成長を実現する

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成21年度の振り返り

国内の景気は、平成21年前半を底に緩やかな回復傾向を示しているとはいえ、世界的な景気後退の影響が長期化する中で企業業績や雇用情勢は依然として厳しく、デフレや為替の円高などへの懸念もあり、本格的な景気回復にはさらに時間がかかると思われます。また、ギリシャの財政問題に端を発した金融市場の動揺に伴う、世界経済への影響にも注視する必要があります。厳しい経営環境の影響を受け、当年度の売上高は2兆1,817億円（前年度比10.4%減）となりました。売上高の減少額に占める為替の円高影響額は901億円です。一方、構造改革費用前営業利益は、構造改革やコストダウンの効果により前年度比大幅増益の1,016億円（同43.6%増）となりました。

当社は、厳しい環境下でも確実に利益を生み出し成長していくためのさらなる強靭な企業体質構築に向け、グループ全体・全事業を対象に、聖域を設けることなく集中的に構造改革を断行するとともに、徹底したコストダウン・経費削減を実施しています。これらの効果により電子映像事業では損益が大幅に改善しました。構造改革は計画どおり進捗しております。平成21年度の構造改革費用は1,437億円を投入し、構造改革費用後営業損失は421億円となりました。

同時に、フラットパネルディスプレイ材料事業における生産能力増強など重点事業分野への経営資源の集中投入や、新興国向け商品の導入など新興国における拡販施策の推進により、成長戦略の再構築も実施しております。

平成21年度の税金等調整前当期純損失は420億円、当社株主帰属当期純損失は384億円となりました。

こうした状況の中、極力配当に努力し、平成21年度の期末配当金は12円50銭、中間配当金12円50銭と合わせ、年間25円となります。

＊5+1事業分野：従来の5重点事業分野（メディカルシステム・ライフサイエンス、グラフィックシステム、ドキュメント、高機能材料、光学デバイス）にデジタルイメージングを加えたもの。

今後の取り組みについて

当社は、この1年間、全社一丸となって経営の合理化、経営基盤の強化、現場力の強化に取り組んできました。平成22年度は、再び富士フイルムグループを成長軌道に乗せるための重要な1年と位置付け、成長が期待される事業分野・地域、特に新興国市場に対し、経営資源を集中投入します。具体的には、

① 当社が技術力や市場ポジションなどで優位性を持ち、市場規模が大きく成長性が高い、5+1事業分野*に経営資源を集中投入します。

② 市場ニーズにあった良質でコストパフォーマンスの高い商品をさらに増やし、市場を拡大していきます。

③ 世界市場を見直し、低シェア地域を積極的に攻め、シェアアップを図ります。

④ 世界経済を牽引する新興国に対し、従来の延長線上ではない思い切った施策を打ちます。人材をはじめとする経営資源、地域ニーズに合った商品を集中投入し、全事業部、現地法人一丸となって拡販を進めていきます。

さらに、ヘルスケア事業、高機能材料の開発による環境・エネルギー市場への参入など、技術力を武器に戦い抜いてきた富士フイルムグループならではの先進独自の技術資産を活かして、新規事業による成長を加速します。そして、当社が掲げる目標・課題に社員一人ひとりが徹底的にこだわり、強い気持ちを持ってやり抜くことで新たな成長を実現していきます。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成22年6月

代表取締役社長・CEO

古森重隆

財務ハイライト

単位：百万円

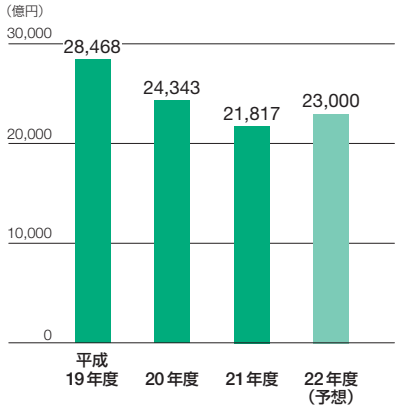
	平成21年度 （平成21年4月1日～平成22年3月31日）	平成20年度 （平成20年4月1日～平成21年3月31日）	増減額
損益状況			
売上高	**¥2,181,693**	¥2,434,344	△252,651
構造改革費用前営業利益	**101,629**	70,769	30,860
構造改革費用後営業利益（△損失）	**△42,112**	37,286	△79,398
税金等調整前当期純利益（△損失）	**△41,999**	9,442	△51,441
当社株主帰属当期純利益（△損失）	**△38,441**	10,524	△48,965
研究開発費	**175,120**	191,076	△15,956
キャッシュ・フロー状況			
営業活動によるキャッシュ・フロー	**314,826**	209,506	105,320
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△131,204**	△152,781	21,577
フリー・キャッシュ・フロー *1	**183,622**	56,725	126,897
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△42,609**	△102,139	59,530
財政状態			
総資産	**2,827,428**	2,896,637	△69,209
株主資本	**1,746,107**	1,756,313	△10,206
設備投資額 *2	**77,913**	112,402	△34,489
減価償却費 *2	**195,083**	212,565	△17,482
（うち有形固定資産）*2	**135,103**	149,912	△14,809

単位：円

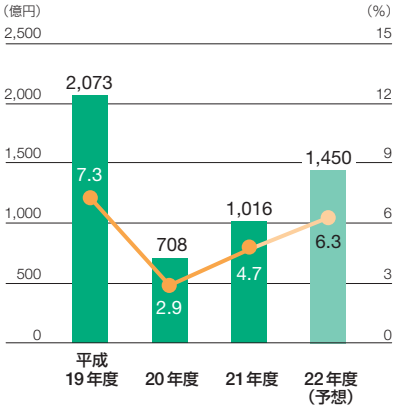
1株当たり金額			
当社株主帰属当期純利益（△損失）	**¥ △78.67**	¥ 21.10	
潜在株式調整後当社株主帰属当期純利益（△損失）	**△78.67**	21.09	
配当金	**25.00**	30.00	
財務指標			
構造改革費用前営業利益率	**4.7%**	2.9%	
ROE	**△2.2%**	0.6%	
株主資本比率	**61.8%**	60.6%	
配当性向（連結ベース）	**—**	142.2%	

＊1 フリー・キャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー
＊2 ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

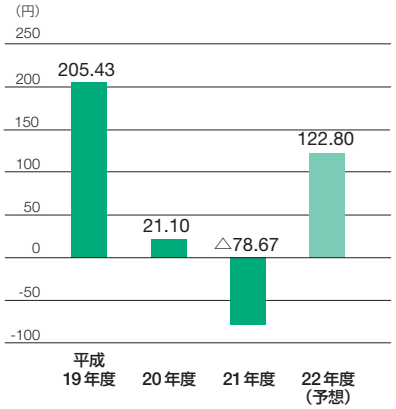
■ 売上高



■ 構造改革費用前営業利益
● 構造改革費用前営業利益率

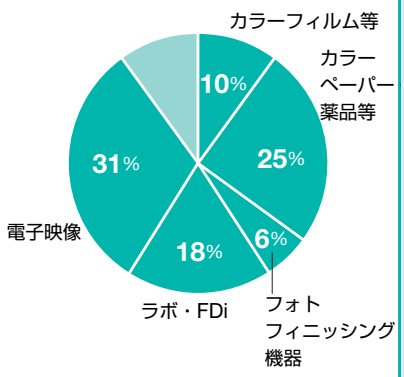


■ 1株当たり当社株主帰属当期純利益（損失）



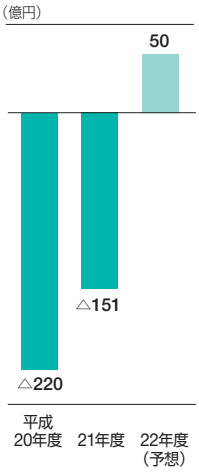
イメージングソリューション

売上高構成比



売上高

構造改革費用前営業利益(△損失)



業績概要

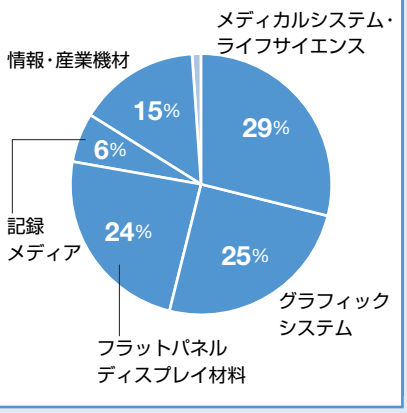
- フォト事業は、カラーフィルムなどの需要減少などで売上減。構造改革費用前営業損失は縮小。「フォトブック」など付加価値プリントがシェア拡大。電子映像事業は、事業構造改革、サプライチェーンマネジメント強化などで事業営業利益黒字化を達成。

今後の取り組み

- 市場が拡大する「フォトブック」など付加価値プリントの販促強化。
- 「FinePix REAL 3D System」「FinePix Z700EXR」など独自技術を活かしたデジタルカメラの拡販。
- 新興国において、各地域のニーズに合わせたデジタルカメラの拡販。

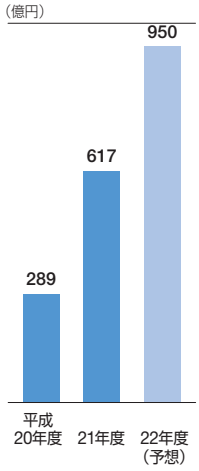
インフォメーションソリューション

売上高構成比



売上高

構造改革費用前営業利益



業績概要

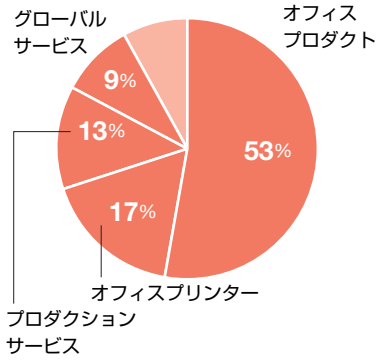
- 為替の円高や世界同時不況の影響を受け、各事業で売上減。構造改革費用前営業利益は増。フラットパネルディスプレイ材料は販売が急回復し、過去最高の売上高を計上。

今後の取り組み

- メディカルは、医療ITや小型FCRを軸に販売強化。デジタルX線画像診断装置(DR)を次々にラインアップ。
- 早期発売を目指し、新インフルエンザ治療薬「T-705」の開発を推進。
- グラフィックは、成長するデジタル印刷分野でワイドフォーマットインクジェットシステムを拡販。
- 光学デバイスは、携帯電話用モジュールなどへの事業拡大の推進。

ドキュメントソリューション

売上高構成比



売上高

構造改革費用前営業利益

業績概要

- 先進国を中心とした需要の低迷と為替の円高影響により売上、構造改革費用前営業利益とも減少したが、中国をはじめとしたアジア・オセアニア地域での販売は回復基調。

今後の取り組み

- 業界トップレベルの省エネ性能と卓越した機能を備えた「ApeosPort-IV / DocuCentre-IV シリーズ」による競争力強化。
- スモールオフィス向けデジタル複合機を拡販、海外でもローエンド市場向けに販売。
- 成長が期待されるプロダクションサービス、グローバルサービスの強化。

クオリティ オブ ライフに貢献する、富士フイルムの注目製品・技術・サービス

大きな関心を集める3D市場で、世界に先駆け裸眼で楽しむ3Dデジタル映像システムを提供

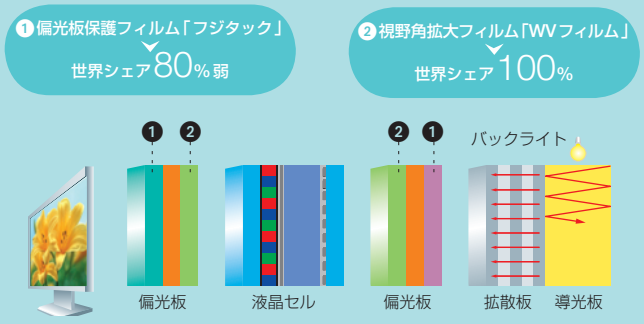
Topic 01

富士フイルムの「FinePix REAL 3D System」は、**高画質で自然な3Dの映像が撮影できる**デジタルカメラ「FinePix REAL 3D W1」、撮影した3D映像を**専用メガネ不要で鑑賞できる**ビューワー「FinePix REAL 3D V1」、**3D画像を写真プリント**にする「3Dプリント」を1つのシステムとして、平成21年8月から提供しています。入力から出力まで誰でも簡単に3D映像を楽しむことを可能にした、**世界で初めて**のこの画期的な取り組みは、世界で最も有力かつ影響力のある写真業界団体の1つである、TIPAからTIPA「Best Imaging Innovation」賞を授与されました。

さらに、平成22年4月には撮影した3D映像（静止画／動画）を3Dテレビに出力できるプレーヤー「HDP-L1」を発売、**3Dテレビの大画面で自分が撮影した3D映像を見られる**ようになりました。

需要拡大、大型化に対応しながら、液晶ディスプレイの基幹パーツを供給

液晶ディスプレイの断面構造図　※TN-TFT LCDの例



Topic 02

テレビやパソコンの液晶ディスプレイが鮮明に映像を映し出すには、**透明性に優れ、光学的にもゆがみのないフィルム**が欠かせません。富士フイルムは、写真フィルムにも使用されているTAC（セルローストリアセテート）を素材とした偏光板保護フィルム「フジタック」や、視野角拡大フィルム「WVフィルム」を提供しています。日本のエコポイントや中国の家電普及政策などの効果により、液晶ディスプレイ市場が急拡大しています。平成21年度の当社のフラットパネルディスプレイ材料の売上は、前期比30%増となりました。この急拡大する需要に対応すべく、富士フイルムは平成21年12月に新生産ラインを稼動させました。

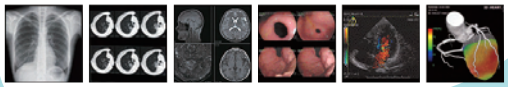
検査画像の効率的な運用で医療現場を支え、遠隔医療や地域医療のレベルアップに貢献

医用画像情報ネットワークシステム「SYNAPSE」

国内
トップシェア

循環器部門向け「SYNAPSE CardioVascular」

「SYNAPSE」で見られる画像



X線　CT　MRI　内視鏡　エコー　3D（立体）

Topic 03

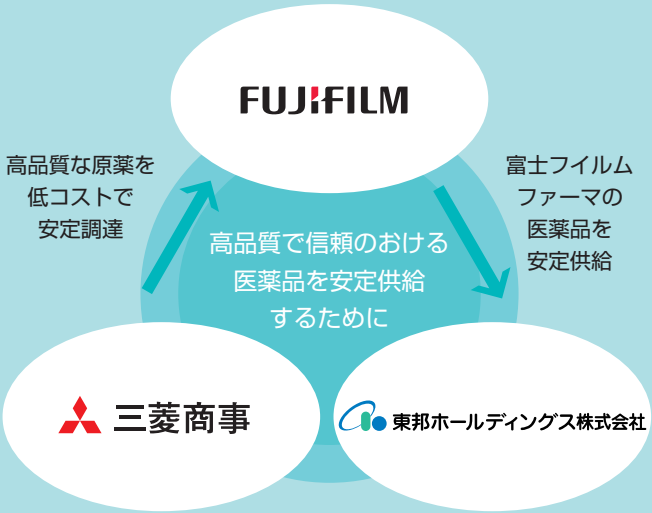
検査設備の整った総合病院で撮った検査画像を、専門医のアドバイスを聞きながら近所のクリニックで見る――クリニック、総合病院や高度専門医療機関をネットワークでつなぎ、「もっと手軽に高度な医療を受けられる」ことを可能にするのが、富士フイルムの医用画像情報ネットワークシステムです。

富士フイルムの医用画像情報ネットワークシステム「SYNAPSE（シナプス）」は、レントゲンやCTなど、**いろいろな検査画像をコンピューター画面上で管理したり、他の病院と共有できるシステム**です。

富士フイルムは、この分野で**国内トップシェア**を獲得しています*。世界の医用画像情報システムの市場は2,800億円規模*で、今後も2桁成長が続くと見られます。

＊平成22年3月末現在

「富士フイルムブランド」の徹底した品質管理で、信頼性の高いジェネリック医薬品を安定供給



富士フイルムファーマは、3社の資本、業務提携で設立されました。3社の強みを活かし、高品質で信頼のおける医薬品を安定供給します。

Topic 04

平成22年4月、富士フイルムファーマが営業を開始し、**「富士フイルムブランド」**のジェネリック医薬品が誕生しました。

先発医薬品に比べて安価なジェネリック医薬品は、患者負担の軽減や医療費抑制に役立つ一方、今後の普及には、**品質や安定供給、情報提供に対する医療機関の信頼**を高める必要があるといわれてきました。こうしたニーズに応えるため、富士フイルムの品質保証基準によって国内外の提携製薬企業から選別、調達した薬剤を「**富士フイルムブランド**」でお届けしています。

次に目指すのは、独自の**FTD技術***を駆使した、従来品と比較して、体への負担が少なく、医療機関にとっても使いやすいジェネリック医薬品の開発です。平成23年度の上市を目標に、準備を進めています。将来は、FTD技術を軸に特徴ある新薬の開発も行います。

＊FTD技術：乳化、分散、ナノ粒子、ナノカプセル形成などによって、成分もしくは素材を機能的に配合し、安定した状態で狙った場所にタイミング良く適量を届け、効果を持続させる技術。

ドキュメント事業の成長キーワードは、「スモールオフィス」「デジタルプリンティング」「中国」と「エコ」

「Color 1000 Press / Color 800 Press」
- カラー・オンデマンド・プリンティングの頂点に立つ圧倒的な生産性
- EA-Eco トナー、クリアトナー採用

「DocuCentre-IV C2260」
- 「小型化」と「使いやすさ」にこだわったスモールオフィス向け複合機
- EA-Eco トナー*1、IH フューザー*2採用

Topic 05

≫中・小規模事業所市場へ本格展開

平成21年12月発売の「DocuCentre-IV C2260」は、新たに**スモールオフィス**向けに開発された、優れたコストパフォーマンスを発揮するデジタル複合機です。「小型化」と「使いやすさ」にこだわり、設置面積を従来機より約2割縮小するとともに、**業界トップレベルの省エネ性能と静音性**を兼ね備えています。

「DocuCentre-IV C2260」は、特に成長著しい**中国など新興国市場**向けとしても、販売を拡大しています。

≫デジタルプリンティング市場に期待の新商品

富士ゼロックスは、デジタルプリンティング市場において、平成22年1月より新商品「Color 1000 Press / Color 800 Press」の販売を開始しました。この市場は、**プリント・オン・デマンド***3へのニーズが高まっていることなどから、高成長が見込まれています（平成20年市場規模12兆円（富士ゼロックス推計））。

「Color 1000 Press / Color 800 Press」は、より繊細な色を追求した**EA-Eco トナー**や印刷物に光沢を出す**クリアトナー**などを採用し、オフセット印刷に迫る高い表現力を実現しています。富士ゼロックスは、これら機器の販売だけでなく、**新たな事業モデルの提案**にも取り組んでいます。

事業モデルの例：
- 旅行会社が顧客一人ひとりののニーズや趣味嗜好に合わせた、個人ごとに異なる旅行プランのDMを送付。
- 写真店が購入者自身が画像を選択できるパーソナライズ写真集を販売。
- ワイン販売会社が自家製ワインのラベルに購入者の名前を入れて販売。

*1 EA-Eco トナー：従来のEAトナーより定着温度が20℃低く、消費電力を節約できます。

*2 IHフューザー：定着装置にIHヒーターを採用し、予熱時間を短縮、待機電力を節約できます。

*3 プリント・オン・デマンド：必要なものを必要なときに必要なだけ印刷すること。版を使うオフセット印刷は、同じものを大量に印刷する。プリント・オン・デマンドでは少量ずつ違うものを印刷できるため、One to Oneマーケティングに活用されている。

印刷関連資材として初めて「カーボンフットプリント」の表示をスタート

算出した「CO_2量」を表示

環境配慮設計プレート「ECONEX XP-F」

カーボンフットプリントの取り組み・詳細情報につきましては、以下のホームページを参照してください。
http://www.cfp-japan.jp/

富士フイルム株式会社は、オフセット印刷*1用刷版材料「サーマルCTPプレート*2」で、経済産業省および関係省庁が推進する「カーボンフットプリント」の表示の使用許諾を得ました。

「カーボンフットプリント」は、製品の(1)原材料調達、(2)生産、(3)流通・販売、(4)使用・維持管理、(5)廃棄・リサイクルまで、ライフサイクル全体の温室効果ガスをCO_2量に換算し、マークを使って分かりやすく表示するものです。今回、印刷関連資材として初めて「カーボンフットプリント」マークの使用許諾を得たことを受け、当社従来品よりも現像液の補充量を最大40%削減し世界トップクラスの低廃液量を実現する「ECONEX XP-F」から同マークを表示していきます。また、「ECONEX XP-F」以外のサーマルCTPプレートでの表示も展開していく予定です。

*1 オフセット印刷：アルミの版(PSプレート)とインクを使用して印刷する高品位な商業印刷。一般的に、大量商業印刷はこのオフセット印刷による。
*2 CTPプレート：フィルムを使用しないデジタル方式(Computer to Plate)の印刷方式に使用されるPSプレート。

研究・開発拠点「富士ゼロックス R&D スクエア」が竣工

平成22年3月23日、神奈川県横浜市の「みなとみらい21」65街区において、研究・開発拠点「富士ゼロックス R&D スクエア」(事業所名：横浜みなとみらい事業所)が竣工しました。

「富士ゼロックス R&D スクエア」は、「**あつまる、ぶつかる、うまれる**」をキー・コンセプトに、分散していた研究・開発拠点をここに集約することで富士ゼロックスの次世代を担う技術やサービスの創出を目指しています。

会社概要

会社名	富士フイルムホールディングス株式会社
設　立	昭和9年1月20日
資本金	40,363百万円(平成22年3月31日現在)
本　社	東京都港区赤坂9丁目7番3号
連結従業員数	74,216名(平成22年3月31日現在)

インターネットで株主様、投資家の皆様向けの情報がご覧になれます。
http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html

株主メモ

事業年度末日　3月31日
定時株主総会　6月下旬

公告掲載
当社ホームページに掲載します。
URL(アドレス)は次のとおりです。
http://www.fujifilmholdings.com/
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人
東京都港区芝3丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社

郵便物送付先／電話照会先
〒168-0063
東京都杉並区和泉2丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社　証券代行部
電話　0120-78-2031(フリーダイヤル)

取次事務は、中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店、及び全国各支店で行っております。

単元株式数　100株

住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等のお申出先
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行にお申し出ください。

「配当金計算書」について
配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
なお、「配当金領収証」にて配当金をお受取りの株主様につきましても、本年より配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

FUJIFILM

ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SA-COC-001196
© 1996 Forest Stewardship Council
GPN Green Purchasing Network 印刷サービス